

2023年度 第2回 学校教育事業委員会議事録

日 時:2024年3月22日(金)

午後2時30分～4時00分

会 場:対面および Zoom ハイブリッド会議

I.出席者 濱瀬 眞知子(長)、岩野 祐介、上谷 円、栗原 由加、中出 恵子 (以上 委員)
西田 勉 (担当 理事)
高等学院担当職員 櫻井 英治、川北陽子
専門学校担当職員 横山 徹太郎、鐘 瑋悦、古谷 茉穂、中道 愛子 (担当主事) (以上職員)

I.欠席者 海老 直人(副)、岩本 哲人、松本 聡子 (以上委員)

I. 聖書朗読

ローマの信徒への手紙 14章19節

「平和や互いの向上に役立つことを追い求めようではありませんか」(2024年度 神戸 YMCA 年間聖句)

I. 開会祈禱

I. 議題

1. 神戸YMCA全体報告

西田氏より、報告があった。

- ・大人向けのウエルネスセンターは、なかなか会員数がコロナ前の水準に戻らず苦戦している。大規模な総合施設よりもお手軽なコンビニフィットネスへの流れが定着している。
- ・保育園・幼稚園も少子化の影響を受け、定員減の園がある。
- ・学童保育・児童館は現状維持、あるいは微増。
- ・新年度、学校教育部門の新入生は、専門学校日本語学科 44 名、ホテル学科 12 名、高等学院 17 名、それぞれ今年度を上回っている。
- ・西神中央や明石で展開しているような、行政から委託を受けた子育て関連の事業が増えている。
- ・能登半島地震の支援活動を、いま現在も行っている。

2. 2023年度各校の状況報告

1) 高等学院

櫻井氏・川北氏から別紙資料をもとに報告があった。

- ・新年度、1年生:15名、2年生転入生:1名、3年生転入生:1名、計17名の新入生を迎える。
- ・こどもの数は減っているが、不登校生の数は増えている。大手他校が数多く三宮周辺に進出しているが、張り合うのではなく、今後も地に足をつけて地道に広報に取り組んでいく。
- ・なぜ私たちが高等学院を運営しているのか、学校の存在意義やどういった生徒を世に送り出したいかを確認している。
- ・今年度はコロナの影響を受けることなく、学校行事をつつがなく実施することができた。
- ・選択科目の設定を増やし、基礎学力の向上を図った。真面目に取り組んだ生徒からの評価は高かった一方で、出席率が悪かった。
- ・少しずつ登校できるようになるなど生徒が成長するにつれ、授業の少なさなどに対する保護者の要望が上がる。
- ・卒業生15名中、13名が進学。今年度は進学者が多かった。

以上の報告を受け、以下の質疑応答がなされた。

- ・生徒たちは良い学校生活を送ることができているのではないか。授業の少なさは、通信制だから致し方ない。保護者には、自学自習が基本であることを理解いただいたうえで、たとえば NHK 講座などを紹介してもいいのではないか。
- ・生徒募集の対象地域について、想定と実情はどうか。→想定・実情とも、神戸市内や明石エリアが多い。とくに西区が多く、ほとんどが近隣である。
- ・進学先として、近隣の大学がほとんどである理由は。→通学範囲の学校を希望する生徒が多い。さらに推薦枠について、大阪や京都の大学となると、大阪本校と競うことになるため、県内を希望するケースが以前から多い。

2) 専門学校 (①ホテル学科、②日本語学科)

①ホテル学科

- ・新 1 年生 12 名を迎える。留学生 (内部進学: ミャンマー) が 1 名おり、また、県外からの学生が 4 名 (東京、栃木、静岡、島根) いる。
- ・今年度は、高校内進路ガイダンスに参加 (須磨ノ浦高等学校・伊川谷高等学校) した。
- ・2025 年度学生募集に向けて、募集要項改訂を進めている。要項を見ればすべてが分かるよう、従来のものより細かく記載。そして入試のハードルを下げる。留学生の日本語能力については、N2 合格であった出願条件を、N2 相当と変更する。
- ・今年度の就職先一覧が、画面で共有された。2 年生 21 名全員が内定。自宅から通える範囲を選ぶ学生が多い。通えなくても神戸・大阪が多い。企業の採用活動時期が早期化している。各社とも人材確保に注力している。
- ・新 2 年生が 1 名、海外実習予定。東京 YMCA とパートナーシップ関係にあるフロストバレー YMCA でキャンプリーダーとして活動する。
- ・創立 60 周年を迎える。11/6 に記念式典を実施予定。

以上の報告を受け、以下の質疑応答がなされた。

- ・濱瀬委員長より次の提案がなされた。新年度は島根からの新入生がおり、今年度の卒業生には鳥取出身の学生がいた。鳥取砂丘や出雲大社の周辺に新しいホテルができています。人気観光地である山陰エリアに、ホテル専門学校がない。この地域の学生募集に力を注いではどうか。
- ・栗原委員より次の情報共有がなされた。ホテル業界への就職を希望する留学生が多いのは、ミャンマーほか、南アジアのバングラディッシュやネパール。そういった学生が多そうな日本語学校としては、富藤外国語学院など。中国地方でいえば、さくら国際言語学院。

②日本語学科

鐘氏より、別紙資料に基づき報告がなされた。

- ・2024 年度 4 月生ビザ申請状況について、申請数 44 件に対し、許可数 43 件、不交付 1 件。許可率 97.8%。ミャンマーの 15 件に次いで多いのが台湾の 12 件。その次に多い中国が 9 件。
- ・中国・台湾は、年齢層が上がっている。社会人経験者の留学希望が増えている。
- ・台湾は、短期留学の問い合わせも増加。2024 年 4 月の 3 ヶ月短期コースに 11 名が申込。
- ・今年度卒業生 66 名の進路状況としては、進学 33 名、就職 11 名、帰国 6 名、その他 15 名。
- ・就職希望者が増加。就職サポートクラス参加者が 17 名、うち 10 名内定獲得。
就活の特定活動ビザの申請者も増加。
- ・ボランティアに、のべ 29 名が参加した。
- ・すべての行事を対面で実施できた。
- ・日本語教育機関の認定校申請に向け、カリキュラム編成、学則変更等の申請手続きが急務。

以上の報告を受け、以下の質疑応答がなされた。

栗原委員よりスピーチコンテストの感想、報告についての質問やその他情報の共有がなされた。

- ・スピーチコンテストについて、学生たちは聞く姿勢も良い。
- ・認定校申請分野について、留学のみで申請予定。

- ・就職サポートクラスに在籍する学生の国籍は多様。
- ・大学と専門学校は連携を密にすべき。大学は出口（進路）情報に詳しい。

3. その他

学校評価（自己点検）について

中道氏より、資料に基づき、報告がなされた。

- ・昨年度までに比べ、ほとんどコロナの影響を受けていない
- ・今年度は現状として、ホテル学科の募集低調を日本語学科でカバーしたかたち。

4. 次回開催日

6月 火曜日の午後で調整 6月 11日か 18日あたりで調整する。

5. 閉会祈禱

I. 閉会

以上

（記録：横山 徹太郎）